

クウェート留学もいよいよ終盤に入りながらも、未だにこの国に驚かされることは多々ある。ここで体験したカルチャーショックは自身が以前に米国留学で体験したものとは比べ物にならないくらい凄まじかった。いくつか印象を受けた事について述べたいと思う。

まず最初にアラブ人女性の生活についてである。普段外出するときはアバヤを着ている女性でも、家の中ではアバヤを脱ぎ捨てヘジャブをとり、露出の多い格好をしているのである。初めて友達のお家に招待された時に受けた衝撃はとても大きかった。また、ニカブをしていて今まで目しか見えなかった友人が全てを脱ぎ捨てた時は、あなた誰ですか状態でなぜか私がよそよそしくなったしまった。また、寮内のパーティーでは、普段ニカブをしている女の子が露出の多いミニの赤いドレスでハイヒールを履きアラブ音楽にのせて踊っている光景には普段とのギャップに大変驚いた。

また、アバヤを着ている女性に対して疑問を抱いたり、または偏見があったりする人も日本や欧米社会では少なからずいると思う。しかし、宗教的な理由を除いて、実際にクウェートで生活をしてみて、その理由は一目瞭然である。それは、砂漠地域特有の砂嵐である。今年は、1月から6月にかけて毎月数回は起こった。砂嵐がひどい時は、大学も休校になる。6月には、4日連続で砂嵐が続いたときもある。外は雪が降っているかのように真っ白になり少し外に出ただけで全身砂だらけになるため、なぜこの地域でアバヤが広く好まれて着られているのか理解ができる。また、夏になると気温が50度に達するため直射日光から肌を守るために着るのも、実際に50度の気温を体験した後だと納得する。やはりその土地で着られているものには当たり前だがいつも理由があるのである。

次に、アラブ人家族のあり方について述べたいと思う。この留学を通して、アラブ人家族の結束力を垣間見る機会があった。クウェート人の友人によると、週一の頻度で親戚が集まるというのだ。日本で親戚中が集まるというと、お盆とお正月の年に2回ぐらいだろうか。また、クウェート人の友達が海外旅行に行ってきたというので誰と行ってきたのかと聞くと、親戚全員で行ったというのだ。その数およそ30人。これには非常に驚いた。家族という社会単位に対して重点を置くこのアラブ文化は、日本人も見直すべきではないかと思う。

最後に、この留学では楽しいことだけではなくもちろん辛いことも経験した。アジア人女性に対する差別のため、外を少しでも歩けばジーっと見られたり罵声を飛ばされたりクラクションの嵐だったり、最初来たばかりの時はこれがかなり堪えた。それでも、無事に留学を終えることが出来たのは、精神面で支えてくれた日本にいる両親や様々な方のサポートがあったからです。そして何よりこの国でたくさんの事を学びそして吸収する機会を与えてくれたクウェート政府、日本大使館、日本人会の皆様には感謝の念でいっぱいです。